

§6.4 三角比の性質

定理 6.4.1 任意の一般角 θ について、 θ が角度 90° の奇数倍でないときに限り、 $\tan\theta$ の値があり

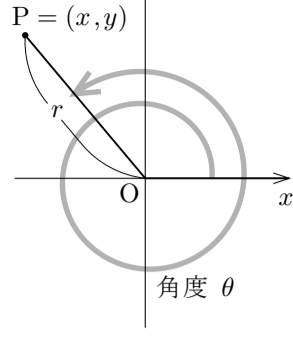
$$\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta} .$$

証明 xy 座標平面において、原点 O を極として x 軸の向きに延びる始線 Ox に対する角度 θ の動径に属す点 $P = (x, y)$ ($P \neq O$) をとり、 $\overline{OP} = r$ とおく。 $\tan\theta = \frac{y}{x}$ の値があるのは、 $x \neq 0$ のとき、つまり

$\theta \neq \pm 90^\circ$ かつ $\theta \neq \pm 270^\circ$ かつ $\theta \neq \pm 450^\circ$ かつ \dots のとき、つまり θ が 90° の奇数倍でないときである。

このとき、 $\cos\theta \neq 0$ で、

$$\frac{\sin\theta}{\cos\theta} = \frac{\frac{y}{r}}{\frac{x}{r}} = \frac{y}{x} = \tan\theta .$$



(証明終り)

定理 6.4.2 任意の一般角 θ について

$$(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1 .$$

証明 xy 座標平面において、原点 O を極として x 軸の向きに延びる始線 Ox に対する角度 θ の動径に属す点 $P = (x, y)$ ($P \neq O$) をとる。

$O = (0, 0)$ なので、定理 6.0 より、

$$\overline{OP}^2 = (x-0)^2 + (y-0)^2 = x^2 + y^2 .$$

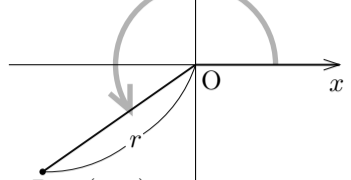
$\overline{OP} = r$ とおく。 $\overline{OP}^2 = r^2$ なので、

$$x^2 + y^2 = r^2 .$$

定義より $\cos\theta = \frac{x}{r}$, $\sin\theta = \frac{y}{r}$ なので、

$$(\cos\theta)^2 + (\sin\theta)^2 = \left(\frac{x}{r}\right)^2 + \left(\frac{y}{r}\right)^2 = \frac{x^2}{r^2} + \frac{y^2}{r^2} = \frac{x^2 + y^2}{r^2} = \frac{r^2}{r^2} = 1 ,$$

つまり $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$.



(証明終り)

例題 一般角 θ について $\sin\theta = \frac{5}{7}$, $\cos\theta \geq 0$ とする。 $\cos\theta$ 及び $\tan\theta$ の値を求めよ。

【解説】 定理 6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$. $\sin\theta = \frac{5}{7}$ なので、

$$\begin{aligned} \left(\frac{5}{7}\right)^2 + (\cos\theta)^2 &= 1 , \\ (\cos\theta)^2 &= 1 - \left(\frac{5}{7}\right)^2 = 1 - \frac{25}{49} = \frac{24}{49} , \\ \cos\theta &= \pm\sqrt{\frac{24}{49}} = \pm\frac{\sqrt{24}}{7} , \end{aligned}$$

$\cos\theta \geq 0$ なので $\cos\theta = \frac{\sqrt{24}}{7}$. 更に、定理 6.4.1 より、

$$\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta} = \frac{\frac{5}{7}}{\frac{\sqrt{24}}{7}} = \frac{5}{\sqrt{24}} . \quad \text{終}$$

問題 6.4.1 一般角 θ について $\sin\theta = \frac{4}{5}$, $\cos\theta \leq 0$ とします。 $\cos\theta$ 及び $\tan\theta$ の値を求めなさい。

問題 6.4.2 一般角 θ について $\cos\theta = \frac{1}{3}$, $\sin\theta \geq 0$ とします。 $\sin\theta$ 及び $\tan\theta$ の値を求めなさい。

定理 6.4.3 任意の一般角 θ について、 θ が角度 90° の奇数倍でないとき、

$$1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2} .$$

証明 一般角 θ は角度 90° の奇数倍でないとする。このとき $\cos\theta \neq 0$. 定理 6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$. 両辺を $(\cos\theta)^2$ で割ると、

$$\frac{(\sin\theta)^2}{(\cos\theta)^2} + \frac{(\cos\theta)^2}{(\cos\theta)^2} = \frac{1}{(\cos\theta)^2} ,$$

この等式の左辺は

$$\frac{(\sin\theta)^2}{(\cos\theta)^2} + \frac{(\cos\theta)^2}{(\cos\theta)^2} = \left(\frac{\sin\theta}{\cos\theta}\right)^2 + 1 = (\tan\theta)^2 + 1 = 1 + (\tan\theta)^2 ,$$

従って $1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2}$.

例題 一般角 θ について $\tan\theta = 3$, $\cos\theta \leq 0$ とする。 $\cos\theta$ 及び $\sin\theta$ の値を求めよ。

【解説】 定理 6.4.3 より $1 + (\tan\theta)^2 = \frac{1}{(\cos\theta)^2}$ なので、

$$\frac{1}{(\cos\theta)^2} = 1 + (\tan\theta)^2 = 1 + 3^2 = 10 ,$$

$$(\cos\theta)^2 = \frac{1}{10} ,$$

$$\cos\theta = \pm\sqrt{\frac{1}{10}} = \pm\frac{1}{\sqrt{10}} ,$$

$\cos\theta \leq 0$ なので $\cos\theta = -\frac{1}{\sqrt{10}}$. 更に、定理 6.4.1 より $\tan\theta = \frac{\sin\theta}{\cos\theta}$ なので、

$$\sin\theta = \tan\theta \cos\theta = 3 \cdot \left(-\frac{1}{\sqrt{10}}\right) = -\frac{3}{\sqrt{10}} . \quad \text{終}$$

問題 6.4.3 一般角 θ について $\tan\theta = \frac{3}{2}$, $\cos\theta \leq 0$ とします。 $\cos\theta$ 及び $\sin\theta$ の値を求めなさい。

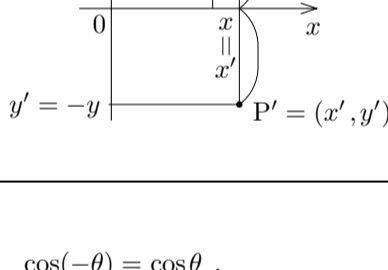
xy 座標平面の点 $P' = (x', y')$

が点 $P = (x, y)$ と x 軸に関して

対称であるとき、

$$x' = x , \quad y' = -y .$$

このことから次の定理が導かれます。



定理 6.4.4 任意の一般角 θ について、

$$\sin(-\theta) = -\sin\theta , \quad \cos(-\theta) = \cos\theta ,$$

θ が 90° の奇数倍でないとき $\tan(-\theta) = -\tan\theta$.

証明 実数 r について $r > 0$ とする。点 O を原点とする xy 座標平面の点 $P = (x, y)$ を次のように定める：線分 OP は始線 Ox に対する角度 θ の線分で、 $\overline{OP} = r$. 更に、点 $P' = (x', y')$ を次のように定める：線分 OP' は始線 Ox に対する角度 $-\theta$ の線分で、 $\overline{OP'} = r$. $\overline{OP} = \overline{OP'}$ で、始線 Ox に対する線分 OP の角度は θ , 線分 OP' の角度は $-\theta$ なので、点 $P' = (x', y')$ と点 $P = (x, y)$ とは x 軸に関して対称である。従って、

$$x' = x , \quad y' = -y .$$

$\sin\theta = \frac{y}{r}$, $\sin(-\theta) = \frac{y'}{r}$ なので、

$$\sin(-\theta) = \frac{y'}{r} = \frac{-y}{r} = -\frac{y}{r} = -\sin\theta .$$

$\cos\theta = \frac{x}{r}$, $\cos(-\theta) = \frac{x'}{r}$ なので

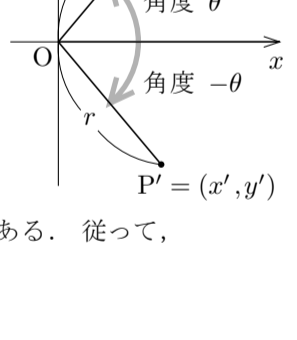
$$\cos(-\theta) = \frac{x'}{r} = \frac{x}{r} = \cos\theta .$$

更に、 θ が 90° の奇数倍でないとき、 $x \neq 0$ かつ $x' \neq 0$ で、 $\tan\theta = \frac{y}{x}$,

$\tan(-\theta) = \frac{y'}{x'}$ なので、

$$\tan(-\theta) = \frac{y'}{x'} = \frac{-y}{x} = -\frac{y}{x} = -\tan\theta .$$

(証明終り)



定理 6.4.5 xy 座標平面の点 P について、原点 O から x 軸の向きに延びる始線 Ox に対する線分 OP の角度が θ であるとき、 $\overline{OP} = r$ とおくと

$$P = (r\cos\theta, r\sin\theta) .$$

証明 $r = \overline{OP}$ は線分の長さなので $r \geq 0$. $r = 0$ のときと $r > 0$ のときに分ける。

$r = 0$ のとき、 $\overline{OP} = 0$ なので $P = O$, $r = 0$ より $(r\cos\theta, r\sin\theta) = (0, 0) = O$; よって $P = (r\cos\theta, r\sin\theta)$.

$r > 0$ のとき、 $P = (x, y)$ とおく。余弦と正弦の定義より $\cos\theta = \frac{x}{r}$, $\sin\theta = \frac{y}{r}$ なので、

$$x = r\cos\theta , \quad y = r\sin\theta .$$

よって $P = (x, y) = (r\cos\theta, r\sin\theta)$.

例題 点 O を原点とする xy 座標平面の点 P について、線分 OP の始線 Ox に対する角度が 30° で $\overline{OP} = 5$ とする。点 P を求めよ。

$$\cos 30^\circ = \frac{\sqrt{3}}{2} , \quad \sin 30^\circ = \frac{1}{2} \quad \text{なので、定理 6.4.5 より、}$$

$$P = (5\cos 30^\circ, 5\sin 30^\circ) = \left(\frac{5\sqrt{3}}{2}, \frac{5}{2}\right) . \quad \text{終}$$

問題 6.4.4 点 O を原点とする xy 座標平面の点 P について、線分 OP の始線 Ox に対する角度が 60° で $\overline{OP} = \frac{4}{3}$ とします。点 P を求めなさい。

定理 6.4.6 任意の一般角 θ について、

$$-1 \leq \sin\theta \leq 1 , \quad -1 \leq \cos\theta \leq 1 .$$

証明 任意の一般角 θ について、定理 6.4.2 より $(\sin\theta)^2 + (\cos\theta)^2 = 1$. $S = \sin\theta$ とおき $C = \cos\theta$ とおくと $S^2 + C^2 = 1$. これより $C^2 = 1 - S^2$. C は実数なので $C^2 \geq 0$, よって $1 - S^2 \geq 0$. この不等式を S に関する不等式と考えて解く； $S^2 - 1 \leq 0$, $(S+1)(S-1) \leq 0$, $-1 \leq S \leq 1$. 故に $-1 \leq \sin\theta \leq 1$. また、 $S^2 + C^2 = 1$ より $1 - C^2 = S^2 \geq 0$, この不等式を C に関する不等式として解くと $-1 \leq C \leq 1$. 故に $-1 \leq \cos\theta \leq 1$.

(証明終り)

